

# 成人・老年看護実習 評価表

実習場所(                      病院                      病棟 )    実習期間: 令和    年    月    日(    )

G    学籍番号

氏名

目 標	評 価 項 目	学 生 評 価	教 員 評 価	
知	1. 対象を総合的に捉え理解する	1) 事前学習から、対象の発達段階・発達課題を考え、記述できる	4・3・2・1・0	
		2) 事前学習から、健康障害が対象に及ぼす影響を考え、記述できる	4・3・2・1・0	
		3) 対象の心理状態を考え適切に接し、反応を記述できる	4・3・2・1・0	
		4) 意図的コミュニケーションの必要性を理解し、実施できる	4・3・2・1・0	
識	2. 対象の疾患について理解できる	5) 対象の疾患と健康レベルを理解し、記述できる	4・3・2・1・0	
		6) 対象の疾患に関連した症状を理解し、観察し、記述できる	4・3・2・1・0	
		7) 健康障害による身体的苦痛を理解し、記述できる	4・3・2・1・0	
		8) 対象が受けている検査・治療の必要性を理解し、記述できる	4・3・2・1・0	
		9) 対象が受けている検査・治療の内容を考慮したアセスメントができる	4・3・2・1・0	
技 術	3. 対象に必要な日常生活援助を計画し、実施、評価から修正することができる	10) 必要な情報の収集・情報の取捨選択ができる	4・3・2・1・0	
		11) 収集した情報の領域に沿った分類ができる	4・3・2・1・0	
		12) 収集した情報の領域に沿った分析と解釈(アセスメント)ができる	4・3・2・1・0	
		13) 収集した情報の整理・統合をし、記述できる	4・3・2・1・0	
		14) 対象の健康回復に向けた必要な援助の抽出ができる	4・3・2・1・0	
		15) 対象に必要な日常生活援助の計画ができる	4・3・2・1・0	
		16) 対象に必要な援助計画の根拠を記述できる	4・3・2・1・0	
		17) 対象に必要な日常生活援助の準備から片付けまでの一連の動作ができる	4・3・2・1・0	
		18) 対象に必要な日常生活援助の実践ができる	4・3・2・1・0	
		19) 日常生活援助中の、患者の反応・状態・成果を的確に記述できる	4・3・2・1・0	
		20) 実践を、根拠に基づいて評価・考察することができる	4・3・2・1・0	
21) 日々の計画を振り返り、修正・計画の変更ができる	4・3・2・1・0			
態	4. 看護師として相応しい態度が身につくことができる	22) 信頼関係を築くための関りができ、記録に記述できる	2・1・0	
		23) 適切な時期に、連絡・報告・相談ができる	2・1・0	
		24) 時間と規則を守ることができる	2・1・0	
		25) 挨拶ができ、学生としての適切な行動と言葉遣いができる	2・1・0	
		度	5. グループメンバーと協力できる	26) グループメンバーと協力するための行動ができる
27) グループメンバーと情報・意見交換を積極的にできる	2・1・0			
28) 受け持ち以外の対象に関心を持ち、カンファレンスで意見交換ができる	2・1・0			
29) リーダーシップ、メンバーシップの行動ができる	2・1・0			

日時/理由

実習評価点

点/100点

点

遅刻	回		学生評価
早退	回		教員評価
欠席	回		

評価基準

【1～21項目】

4: 指導なしでできる    3: 指導にておおむねできる  
2: 指導にて半分程度できる    1: 指導にて一部できる    0: できない

【22～29項目】

2: 積極的にできる    1: 指導後にできる    0: できない

学生サイン

教員サイン